



第429号 **公益社団法人 徳島県環境技術センター**

徳島市津田海岸町 2-33
 電話 (088) 636-1234(代)
 FAX (088) 636-1122
 発行責任者 大坂 利弘
 編集者 原岡 艶 甲

発行

新年挨拶



謹んで年頭の御祝詞を申し上げます。
 会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。
 また、平素から法定検査をはじめとする当センターの事業運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。
 さて、昨年、当センターでは、県水・環境課と連携し、合併浄化槽の推進につき積極的に活動した結果、4月に三好市に於いて市町村型PFI事業が開始され、また、維持管理一括協議会も新たに9市町で設置されました。これにより、単独からの転換等設置数の増加に加え、適正な施工、さらには適正な維持管理も確保されるようになりますので、私ども業界のみならず、徳島県の生活排水対策・水環境保全にとって、大変有意義で大きな前進となりました。

しかしながら、同時に課題も残っております。
 それは、昨年末にマスコミを賑わしたマンションの『地中杭』やドイツ車の『排ガス』の問題と同様、『見えないところは手抜き』、『バレ無ければOK』という実態が、一部ではありますが、施工業界でも、維持管理においても、日常的に見受けられ、しかもそれがまかり通っている現状があるということです。
 浄化槽は、通常地下に埋設されており、普段人の目に晒されることが無いこと、また法定検査の受検率が未だ半数強程度で十分にチェック機能を果たしていないことがその要因だと考えられますが、真面目に業務に取り組んでおられるほとんどの会員の皆様は、この状況に憤りを感じておられるのではないのでしょうか。
 今、私どもは浄化槽が、コストパフォーマンスに優れ、災害に強いなど、下水道と同等以上の価値を持つ社会インフラである事を積極的にアピールをしていますが、コンプライアンスに反するこのような行為がまびらかになれば、浄化槽自体の信頼性が根底から損なわれ、浄化槽推進の機運が一気に消滅してしまう事態が避けられません。
 無論、『施工については、杭同様、元請けからの工期指定や予算が関係し、業界だけの問題では無い』とする意見や『そのような不正行為は、行政が取り締まるべき』とのご意見もございますが、私は、この状況を

変えるのは、まずは我々自身だと思っております。
 それぞれの業界内で、適切なルールを定め、それを会員が皆で厳守する。最初は少し窮屈に思われるかもしれませんが、やがてはそれが当たり前になり、ひいては『県民の信頼に答え得る業界』に生まれ変わる大きな流れが出来上がると確信しています。
 そして、我々自身が自ら率先して行動することで、公益法人として、その社会的責任を果たすことが出来、名実共に公益の名に恥じない団体として県民に認知されるのではないかと考えております。
 結びとなりますが、会員の皆様の益々のご繁栄を心より祈念すると共に、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶に代えさせていただきます。
 平成28年元旦

会長 大坂 利弘

27年度管理士試験発表

合格率21.5% 前年比1.5%アップ

（財）日本環境整備教育センターは、12月15日、平成27年10月25日に全国5会場（宮城県・東京都・愛知県・大阪府・福岡県）で実施された浄化槽管理士試験の結果を発表した。
 それによると、受験申請者は1,285人（前年度1,181人）、そのうち1,156人（同1,057人）が受験した。合格者数は248人（同211人）で合格率は21.5%（同20.0%）で昨年度比1.5%増となった。
 尚、合格基準点は総合得点65点以上となった。
 会場別の合格者数は次のとおり

宮城会場	18名（前年度16名）	東京会場	75名（前年度63名）
愛知会場	64名（前年度47名）	大阪会場	56名（前年度58名）
福岡会場	35名（前年度27名）		

謹賀新年

昨年中はいろいろお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

監	理	常	専	副	会
"	"	"	"	"	"
事	事	務	務	理	長
		事	事	長	長

志摩	長地	田中	中筋	吉岡	庄野	岡崎	藤田	川人	吉村	原岡	井内	大坂
恭	孝	章	光	芳	誠	艶	幸	利				
臣	夫	勝	勝	聡	清	二	男	司	正	甲	幸	弘

第3回施工技術委員会開催

県環境技術センターは11月12日(木)午後3時から、第3回施工技術委員会をセンター 4階会議室で開催した。

当日は、委員8名が出席、高尾委員長の挨拶のあと、浄化槽コンクリート底版の販売方法等について協議した。

この浄化槽コンクリート底版の、会員事業所向け販売は、8月から開始しており、これまでの活動について事務局から報告した。

まずは、これまでの販売台数を報告。その後、行政への働きかけについて説明した。内容は、県に設計計算書を提出した後、各市町村の浄化槽補助金窓口へ設計計算書及び底版パンフレットを持参、担当者に対し底版の使用について問題がないかを確認すると共に、PC底版のメリットについても理解していただくことにした。その結果、各市町村ともに既に設置実績のある先行メーカーもあることから、そのメリット等も十分に理解されており、今後PC底版の使用を推進していく上で、何ら問題はないことを報告した。

次に会員への活動についても報告。届け出実績の多い会員事業所や、認定設備士が所属している事業所を中心に営業活動を行った。既に他メーカーのものを使用しているところは、商品そのものについては理解していただきやすかったが、施工実績が少なく遠隔地の事業所については、送料が足かせとなり、購入に踏み込めない事業所もあることから、販売網等販売方法に多少の課題があると考えられることも併せて報告した。

報告後、委員からは、もう少し非会員事業所にもPRをしていく必要があるとの意見が出された。

また現在、PC底版を使用した施工に関し不安を抱えている事業所が多いため、今後は施工方法についてより情報提供をしていく等、すべての事業所がPC底版

使用に踏み込む環境作りを整備するとともに、適正な施工を確保するための方策について引き続き協議をしていくことを確認し、会を閉じた。



平成27年上半期 浄化槽出荷台数 6.5%減少

一般社団法人浄化槽システム協会は27年度上半期の浄化槽出荷台数を発表した。

5～10人槽は58,195基（前年同期比6.3%減）、11～50人槽3,926基（同9.3%減）、計62,121基（同6.5%減）と極めて厳しい状況が続いている。

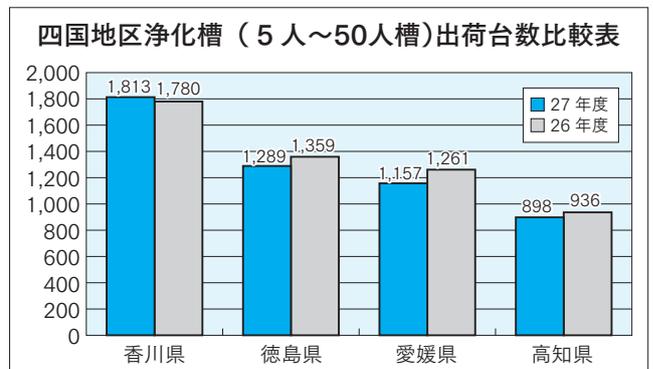
浄化槽出荷台数は、21年～24年度は14万基台で推移していたものの、26年度は消費増税の影響から、一気に12万台まで大きく落ち込み27年度もさらに減少が続いている。

昨年度より増加しているのは、5～10人槽の、北陸ブロック昨年度比2.8%増だけとなっており、その他の地区では減少が続いている。また、11～50人槽では、関東・甲信越が横ばいとなっているが、全体では、10人槽以下と同様に減少している。

29年度は、さらに消費税が10%になる予定であり、今後の見通しも厳しいと予想される。

環境保全の上からもまた地域創生の観点からも単独浄化槽から合併浄化槽への転換対策が急務である。

<図-1>



設置届受付数は微増

一方、環境技術センターが27年4月から27年9月までに受付した、浄化槽の設置計画書及び設置届出書は、1,427基（昨年同期、1,352基）でプラス75基（5%増）となっている。

県内全体の過去3年間の受付数は表-1のとおりで、26年度の消費税率改正が大きく影響している。

<表-1> (基)

	25年度上	26年度上	27年度上
東 部	1,300	1,011	1,105
南 部	216	210	155
西 部	156	131	167
計	1,672	1,352	1,427

住宅着工戸数は5%減 (4月～9月まで)

県住宅課建築指導室の資料によると、平成27年度4月～9月までの住宅着工戸数は、1,904戸（前年度2,003戸）で99戸減（5%減）となった。（表-2）

市町村別では、徳島市が▲68戸と大きく減少、続いて美馬市▲37戸、阿波市▲35戸、鳴門市▲24戸と続く。一方、増加しているのは、北島町+62戸、藍住町+20戸、板野町+20戸、東みよし町+10戸であった。

<表-2> 住宅着工件数の比較

市町村名	26年上	27年上	差異	市町村名	26年上	27年上	差異
徳島市	976	908	-68	那賀町	4	4	0
鳴門市	182	158	-24	牟岐町	4	4	0
小松島市	73	68	-5	美波町	5	3	-2
阿南市	208	195	-13	海陽町	9	3	-6
吉野川市	61	54	-7	松茂町	28	19	-9
阿波市	100	65	-35	北島町	52	114	62
美馬市	64	27	-37	藍住町	99	119	20
三好市	19	22	3	板野町	30	50	20
勝浦町	10	4	-6	上板町	11	19	8
上勝町	0	0	0	つるぎ町	8	3	-5
佐那河内村	1	0	-1	東みよし町	11	21	10
石井町	45	43	-2				
神山町	3	1	-2	合計	2,003	1,904	-99

27年度上半期の浄化槽関係のデータは、浄化槽設置基数は微増、浄化槽出荷台数、住宅着工件数はともに減少で、浄化槽業界を取り巻く状況はますます厳しくなっている。

オープンスクール 授業参観での出前講座を実施

多くの保護者が参観

県環境技術センターは、平成27年11月1日(日)脇町小学校、11月5日(木)郡里小学校(両校とも美馬市)において県水・環境課および美馬市との共催で出前講座を実施した。

今回、この2校の講座は、オープンスクール形式の授業参観日となっており、多くの保護者の方が参加する出前講座となった。

さらに、地元のケーブルテレビの取材も入り、環境教育の内容が、多くの市民の方に広報できる機会となった。

講座内容としては、県水・環境課と市職員が座学講座を、環境技術センターが実験講座を受け持つ、従来の内容。センターが担当した実験講座では、環境教育インストラクターの資格を持つ、若手エースの女性職員が講師を務めた。

センターの実験講座は、視覚的な効果に加えて、環境教育に関して実績と資格を有する女性職員が、分かりやすく、且つ児童に対して優しく務めていることにより毎回好評を得ているが、特に今回の授業では、参観された保護者の方からも好感を持って受け入れられ、実り多いものとなった。

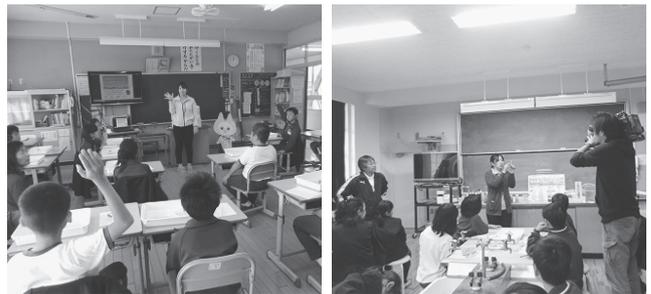
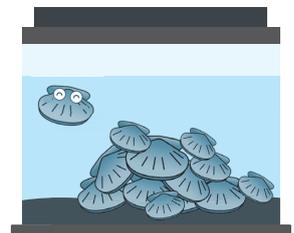
小学校の児童等に対しての出前講座は、公益法人としての普及啓発活動として全国的にも広がりを見せており、各都道府県の会報でも盛んに紹介されている。

出前講座は、法定検査業務等への、直接的に目に見えた効果が現れる事業ではないが、子供を媒体として、家族や地域住民への普及啓発に大きな効果が期待でき、徳島県においても、浄化槽行政を担当する県担当課も積極的に事業を推し進めている。

今後も、これまでに培ってきた環境教育に関するノウハウをさらに磨き、県、市町村と協力体制を構築して、事業を継続していく計画である。

今年度10月末までに開催された環境学習は次のとおり

- ☆岩脇小学校(阿南市) 42人
- ☆沖洲小学校(徳島市) 66人
- ☆助任小学校() 121人
- ☆江原南小学校(美馬市) 35人
- ☆藍住町東小学校(藍住町) 72人
- ☆御所小学校(阿波市) 36人
- ☆江原北小学校(美馬市) 7人
- ☆松茂小学校(松茂町) 94人
- ☆石井小学校(石井町) 83人
- ☆一条小学校(阿波市) 32人
- ☆城東小学校(徳島市) 66人
- ☆羽ノ浦小学校(阿南市) 104人



平成27年度 事業及び会計監査実施

県環境技術センターは、11月11日午前10時から、平成27年度上半期の事業及び会計監査を実施した。

監査には、監事の長地孝夫公認会計士、志摩恭臣弁護士が出席、執行部からは、大坂会長、吉村常任理事(財務担当)、原岡専務理事及び川人常任理事、事務局からは空保総務課長、会計担当の山下主任が出席した。

まず、川人常任理事から27年度上半期に行った事業報告を、原岡専務理事から同じく27年度上半期の会計報告・説明を行った。

その後、関係の諸帳簿を監査し、平成27年度上半期の事業報告書及び収支決算書類は承認された。

監査の様子 27/11/11



ソフトボール大会 優勝の軌跡！ 奇跡？

平成27年11月7日(土)、高松市東部運動公園において、第9回浄化槽法指定検査機関四国地区協議会親睦事業ソフトボール大会が開催された。『年に一度の法定検査ならぬ、年に一度の秋の恒例☆ソフトボール大会』である。

今までの四国四県の優勝成績は、香川県が4回（現在3連覇中）、愛媛県・高知県各2回、そして残念ながら徳島県は“ZERO”だった。

しかし、今回9回目にしてようやく？徳島県が悲願の優勝を果たした。

軌（奇）跡を振り返ると、初戦の高知戦に完勝、次の愛媛戦ではまさかの逆転勝ち、2勝同士の優勝決定戦では、過去全敗中の香川チームにまさかまさかの逆転勝ち……。

去年までのタイムリー欠乏症が、今年は一転、1人の小学2年生の女の子の滑舌が素晴らしく、大きな声援が選手一人一人の心に響き、猛打が爆発、3試合で57得点といったウソのような結果であった。

環境の良い恵まれたソフトボール専用球場で1時間前に準備練習ができ、天気にも味方され、香川県チームから存分に当番県のおもてなしを受け、職員一同普段の運動不足と共にモヤモヤとした気分も解消されて、身も心も“スッキリ”した一日となった。

場所をトRESTA白山に移して、懇親会が行われたが、歓談中、終始三県の方々から安堵の様子で『長かったな、よかった、おめでとう、二年連続したら本当の実力だ！』などと次々にありがたい労いの言葉を頂き、徳島県の奇跡の優勝によって、“四国はひとつ”であることを改めて、実感した。

来年は、第10回目となり記念すべき大会が愛媛県で行われる。また次のドラマが待ち受けているはずである。



勝因は
幹部不在？

初優勝
幹部のあたたかい声援
あったかい？

水質計量便り

新年明けましておめでとうございます。
旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げますと共に、本年も倍旧のお引き立ての程よろしくお願ひ申し上げます。<(_)>

～持続可能な開発のための2030アジェンダ『持続可能な開発目標 (SDGs)』～

さて、2016年といえば、ミレニアム開発目標 (MDGs) に代わる『持続可能な開発目標 (SDGs)』がスタートします。

まず MDGs とは、2000年に採択され、2015年までに国際社会が人間開発分野において達成すべき共通の目標でした。

主に途上国を対象に「極度の貧困と飢餓の撲滅」や「初等教育の完全普及の達成」「ジェンダー平等推進と女性の地位向上」など8ゴール（目標）と21のターゲットを設定しています。

従来通りの開発問題に、先進国がそれを援助するという位置づけのものでしたが、世界全体では、極度の貧困の半減を達成するなど、一定の成果について報告しています。

これに対し、SDGsは先進国を含む全ての国に適用されるユニバーサルリティが特徴です。MDGsの課題を引き継ぎ、さらにその枠組みでは対応できないような「地球温暖化」、「生物多様性の損失」、「格差の拡大」など、気候変動や生態系保全、経済課題なども盛り込む形となり、大幅に増加した17の目標と169ものターゲットを設定しています。

つまり開発という側面だけでなく、経済面、社会面、環境面の3つの側面すべてに対応することを求めているのですね。

この17のゴールのうち少なくとも12が環境関連に含まれるようです。アジェンダの実施に向け、ますます環境への積極的な展開が求められるでしょう。

by koizumi

事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

○11条検査

日程：平成28年1月5日～2月5日

地区：徳島市・小松島市・美波町・牟岐町・海陽町

○7条検査

日程：平成28年1月5日～2月5日

地区：徳島市・鳴門市・小松島市・阿南市・松茂町
板野町・那賀町・美波町・牟岐町・海陽町

○那賀町検査（らくらくあんしん協議会）

日程：平成28年1月5日～2月5日

地区：那賀町全域

○神山町検査（神山町きれいな水づくり協議会）

日程：平成28年1月5日～2月5日

地区：神山町全域

